

「個の歩み」と「共に歩む場所」との豊かな関係を実現するために

この記事は、「協議会メールマガジン」11月号(11月30日配信)“CHALLENGE 2018 -実践へのヒント-”に掲載したものです。

◆「個の歩み」と「共に歩む場所」との豊かな関係を実現するために

様々な場所で、多くのキャリアコンサルタントの皆さんが、困難な課題に向かって日々実践されています。そんな取り組みの中から“行動へのヒント”をさぐる「CHALLENGE 2018 -実践へのヒント」。

今回のチャレンジは、キャリアコンサルタントの新たな職能団体である一般財団法人 ACCN(オールキャリアコンサルタントネットワーク)のスタートを前に、その準備に従事しているキャリアコンサルティング協議会 ACCN準備室の山本達夫にインタビューを行いました。

ACCNの活動を通して実現を目指すもの、12月に全国で開催される「スタートアップミーティング」への想いを聞きました。

◆自発的な学びの場

-ACCNの創設に当たっては、どのような議論がなされたのでしょうか。

(ACCN準備室)

その草創から現在に至るまで、キャリアコンサルタントの方々は、多様な場所でさまざまな成果を出していると感じています。同時に、それぞれの現場で新しい課題や可能性に向き合っていると思います。

資格を取得したのちも、一つの自立した職能として、互いに学び合い、高め合う場所を作るためにはどうしたらいいだろうか、という問題意識から議論は始まりました。

キャリアコンサルティング協議会と各養成団体、技能士会が中心になって、新しい時代の新しい仕組みを模索するなかから、次第に一つの形が見えてきたと考えています。

-ACCNで実現しようとしていることは何なのでしょうか

(ACCN準備室)

ACCNはキャリアコンサルタントの方々に提供する価値を「サポート」だと考えています。何かを管理したり、特定のサービスを一方的に提供する組織ではなく、学びたい、共に歩みたいという方々へのサポートをおこなう仕組みだと考えています。

-具体的にはどんなサポートでしょうか

(ACCN準備室)

一つは互助会のような感覚です。キャリアコンサルタントの方たちが安心して活動できるための保険などのサポートや、情報提供、各種の割引などを予定しています。もう一つは、学びたい、テーマを深めたい、相談したい、課題解決のための知恵を集めたい、といったキャリアコンサルタントの方々の自発的な活動へのサポートです。どちらも重要ですが、特にキャリアコンサルタントが主体的に活用できる活動の場を作ることがサポートとして重要だと考えています。キャリアコンサルタントにとって、異なった価値観や、新しい現場に接する機会を持つことで、学びや気づき、行動変容を起こしていくことが重要ではないでしょうか。

一般財団法人ACCN スタートアップミーティングへの想い

-そのようなニーズが高まっている、ということでしょうか

(ACCN準備室)

社会の急激な変化に伴って、キャリアコンサルタント自身も自己変革していくことが社会から求められていると思います。既成の方法論に適応することだけではなく、現場から新しい変化や課題を主体的に発見する姿勢や、その体験や知見を自分から積極的に周囲と共有するスキルが求められていると感じます。しかし、そのような行動はまだ一部にしか文化として定着していないのではないのでしょうか。そこでACCNでは、全国のキャリアコンサルタントの方々に呼びかけと問いかけを行なって、自発的に学びの場、共有の場を作っていただくきっかけを作りたいと考えています。



◆地域を超え、団体を超えて「場」を作る、
というチャレンジ

-キャリアコンサルタントに自発的な活動の場を作ってもらうことが、キャリアコンサルタントの方々へのサポートになるということですね

(ACCN準備室)

個々のキャリアコンサルタントの方々のなかには、現場の課題やテーマを周囲のキャリアコンサルタントと共有して学び合うという機会が少ない方も多いと思います。やはり個人が周囲を巻き込んで周囲の行動変容を起こしていくことは容易なことではありません。

また、自発的な活動、と言っても、個々のキャリアコンサルタントの問題意識や考え方は多様です。まず出会いや相互理解の場が必要です。また、考え方が似ているだけでは却って新しい視点に立てない場合もあるでしょう。

-「大学で新しいサークルを作ろう」「バンドを作ってライブをしよう」「新規事業を作ろう」というような目論見が竜頭蛇尾になってしまうことはよくあることですね

(ACCN準備室)

潜在的に課題やテーマを持っているキャリアコンサルタントが、そのテーマを表に出しやすくすること、さまざまな知見と出会う場をコーディネートすることがサポートの大切な役割だと考えています。

地域や支援現場や団体を超えた開かれた議論の場がコーディネートされることで、個人が持っている多様な課題や考え方が、新しいモデルになって社会への問いかけとなるのがキャリアコンサルティングの社会的意義になると思います。

-社会への普及やキャリアコンサルタントの資質向上といった職能団体の役割は、まず開かれた交流、議論、学びの場所から実現されるはずだ、ということですね。

(ACCN準備室)

ACCNの活動で重要なチャレンジは、それぞれの現場で感じている課題やテーマを持ち寄った時にどのような化学反応が起きるのかを、なるべくACCN全体という広い視点で蓄積していくことだと感じています。これは教科書のないチャレンジだと思います。せっかく集まってきている課題や知見を、いかに次に繋げていけるか、そんな問いかけも続けていきたいと考えています。

-スタートアップミーティングは自主的な学びの場を作るための第一歩ですね

(ACCN準備室)

スタートアップミーティングは長野、仙台、東京、札幌、大阪、広島、名古屋、福岡の全国8カ所で開催します。長野・仙台・東京はすでに予約受付が終了していますが、ぜひ多くの方々にご参加いただきたいと準備を重ねています。

当日は、ACCNについてのプレゼンテーションと、参加していただくキャリアコンサルタントの方々とのグループディスカッションを行います。

多くの方々との対話を通して、ACCNがキャリアコンサルタント一人ひとりによる自発的な活動であることを共有していきたいと考えています。今回参加できなかった方々にもホームページや別の機会等で情報をお伝えしていく予定です。



◆多様な「問いかけ」によって、知恵を結集する

近年の組織においては、コミュニケーションの重点を「指示」「伝達」「ルール適応」から「問いかけ」へと移行しなければならない、と考えられているようです。

これは企業や組織が、上からの指示や、ルールへの適応という一方的な発信だけを行なった結果、現場が思考停止に陥り、情報が滞って、リスクが増大するという危機を経験し続けた末にたどり着いた発想だといっているでしょう。

管理することではなく、人に動いてもらうこと、成長してもらうことがマネジメントであり、そのためには「指示」「伝達」ではなく、自発的な行動を惹起するための「面談」と「問いかけ」が施策の中心になる、という考え方で

す。多様な背景を持つキャリアコンサルタントが、この「問いかけ」という高度なスキルを、さまざまな方向から主体的に開発していく、それを通して自らを変革していくという大きなチャレンジ、それこそがACCNなのだと感じました。